

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	85	学校名	県立古河第三高等学校				課程	全日制		学校長名	鈴木 厚子					
教頭名	生井 雅人								事務(室)長名	橋本 雄一						
教職員数	教諭	38	養護教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	59
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		130	108	119	113	123	106			372	327	18			

2 目指す学校像

<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校 ○ 自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒を育む学校 ○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校
--

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒 ○ 自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒 ○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒
---	---

別紙様式 1 (高)

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>○授業を学力向上の最重点拠点と位置づけ、三年間を見通した生徒育成計画に基づき、質の高い授業実践と不断の教材研究を推進する。</p> <p>○学習・部活動・行事を横断的に繋ぐ「総合的な探究の時間 (SS)」を核とし、多様な他者との対話を通じて社会貢献を目指す「グローバル市民」を育成する。</p> <p>○確かな学力を土台に生徒自らが志を立て、その実現に向けて能動的に学び続ける「アクティブラーナー」を育成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>○自ら課題を見つけ、主体的に学び行動しようとする意欲ある生徒</p> <p>○多様な価値観を尊重し、他者との対話や協働を通じて社会への貢献を目指す生徒</p> <p>○将来、リーダーとして地域の政治・経済・文化を牽引する高い志を持つ生徒</p>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	多くの生徒は授業に集中して取り組んでいる。向学心、探究心は向上してきているが、まだ十分ではない。	生徒による「主体的・対話的で深い学び」を実現するための更なる改善
進学指導	国公立大学に 12 名・私立大学に 176 名が進学した。進路目標の設定に時間を要し、主体的な情報収集や学習活動に課題を抱える生徒が増えている。	進路目標の明確化に向けた、探究活動やキャリア教育等を通じた「自己発見・発展」の支援強化
生徒指導	SNS の不適切な使用によるトラブルが数件報告された。安易に投稿してしまうケースがほとんどで引き続き注意が必要である。	新入生向けの安全教室や様々な場面での注意喚起、および家庭におけるルール・マナーの対話とルールづくり
特別活動	生徒による行事の自主運営が活発化しているが、準備のための時間が不足している。	生徒の自主的な活動時間確保に向けた、準備の効率化および適切な助言・支援の徹底
働き方改革	月平均 45 時間超過者の割合が約 18% と増加傾向にある。	業務のスリム化・効率化および業務の均等化等のさらなる推進

5 中期的目標

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 三年間の一貫した育成計画に基づく「授業第一主義」の徹底と組織的な授業改善サイクルの定着 2. 「総探SS」を中核に据えた、全教育課程を通じたグローバル市民育成モデルの確立と深化 3. 確かな学力を土台としたアクティブラーナーの育成と卒業後までを見据えた進路指導・支援体制の構築 4. 伝統の継承と地域社会との持続的なパートナーシップの強化による、期待に応え続ける「理想の公立高校」の地位確立 5. 業務のスリム化と効率化、平準化による適正かつ持続可能な勤務環境の構築 |
|--|

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 希望する上級学校への確実な進路実現	<ol style="list-style-type: none"> ①成長プロセス（1年：自己発見、2年：自己発展、3年：自己実現）を軸に、探究学習や多様な進路行事、面談を連動させ、生徒の視野を広げ主体的な進路選択を支える。 ②進路講演会や「進路だより」、学校HP等を活用して生徒・保護者との適切な情報共有を徹底し、生徒が自ら「一步踏み出す」ための動機付けを強化する。 ③大学の公開講座やオープンキャンパスへの積極的な参加を推奨し、学問的関心を喚起すると共に、職業や学部・学科に対する解像度の高い理解を促す。
2 家庭学習の習慣化	<ol style="list-style-type: none"> ④外部模試結果の定期的・多角的な分析に基づき、生徒の学習課題を明確化することで、学習意欲の向上と家庭学習時間の増進を図る。 ⑤生徒がシラバスや進路調査データを活用し、志望校合格に必要な学習量を定量的に分析して中長期的な学習計画を策定する機会を設け、計画的学習の重要性を認識させる。

別紙様式 1 (高)

<p>3 豊かな人間性を身につけるための取り組み</p>	<p>⑥授業や課外活動を通して自己有用感を醸成し、生徒の自律・自立の精神を育てる。 ⑦教養講座や図書館資源の活用により、多角的な知見と豊かな人間性を涵養する。 ⑧体験型学習・集団活動を通して、生徒の社会性を育み、実践力の強化を図る。 ⑨部活動や生徒会、JRC 活動等の教科外活動を活性化させ、キャリア・パスポートを活用して、責任ある行動を維持・継続する態度を養う。</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>⑩各種説明会や中学校訪問等の機会を戦略的に捉えて情報を発信し、本校の特色や教育成果を可視化することで、地域や中学校からの信頼と期待を高める。</p>
<p>5 個に対応した指導</p>	<p>⑪生徒・保護者との強固な信頼関係を構築するため、年2回以上の三者面談を軸に、適宜二者面談を柔軟に実施し多角的な対話を通じて、個に応じた最適な支援を展開する。 ⑫学習指導要領に基づき授業進度・レベルを最適化し、生徒の理解力向上を図る。</p>
<p>6 学校安全の徹底</p>	<p>⑬定期点検の精度向上と防災意識の啓発により、全校的な危機管理能力を高め、安全安心な学校環境を維持する。</p>
<p>7 働き方改革の推進</p>	<p>⑭相互支援の体制構築と時差出勤の活用を推進し、組織的な業務改善を通じて超過勤務時間の縮減を図る。</p>
<p>8 授業改善</p>	<p>⑮授業第一主義のもと、相互授業見学等の研鑽を通じて指導力を高め、生徒の授業満足度 3.2 以上を実現する。</p>